

標 題 : The beneficial effect of Mediterranean diet on colorectal cancer  
結直腸がんに対する地中海食事の有益な作用  
[ Letter to the Editor (誌上討論)]

---

著 者 : A.V. Mattioli, et al. (イタリア モデナ・レッジョ・エミリア大学  
移植、腫瘍および再生医療に関連する外科、内科学部および歯科部門)

---

掲 載 誌 : Int. J. Cancer. 2018 Dec 21. doi: 10.1002/ijc.32082. [印刷に先立つ電子出版]

---

本 文 :  
編 集 者 殿

我々は Schulpen M と共同研究者による論文(1)「地中海食事の順守と膵臓がんのリスク：オランダの2コホートの統合解析」を非常に興味深く読んで、臨床予防を目的とする彼らの重要な結論を見いだした。

地中海食事の順守と「オランダコホート研究(120,852人の被験者)」および「がんと栄養に関するヨーロッパ追跡研究のオランダコホート(EPIC-NL 40,011人の被験者)」からのデータを統合した膵臓がんの発症率との間の関連を、彼らは検討した。

地中海食事の順守を、代替および修正の地中海食事スコアを用いてアルコールを含めるか除外して評価した。

地中海食事の順守は、性別にも地中海食事スコアにも関係なく統合および研究個別の解析で、膵臓がんのリスクと有意に関連しなかった。

オランダの2コホートの統合解析で、地中海食事の順守は膵臓がんのリスクと関連しなかったと、筆者らは結論を出した。

論文で報告された研究結果に関して、我々は考察において以下の寄与をしたい。最近の論文で、結腸がんの減少と関連が見られる地中海食事の3成分を、我々は分析した(2：訳注、オリーブ油文献 93-2)。

我々は、オリーブ油（ポリフェノール）、赤ブドウ（レスベラトロール）およびトマト（リコペン）の作用を分析した。

特にオリーブ油の摂取は、結直腸がんおよび前立腺がんと乳がんを含む他の多くの種類のがんのリスク低下において予防作用を発揮する。

オリーブ油は、細胞でポリアミン代謝に影響し発がん進行の低下を導いて、その予防作用を発揮する可能性がある(3)。

地中海食事は抗酸化物およびポリフェノールの高い摂取が特徴である(4,5)。

これらの成分は心臓血管系に多くの良い影響を発揮して、男性と女性の両方でアテローム性動脈硬化の進行を予防すると、良く知られている(4,5)。

Schulpen M と共同研究者は、男性と女性の両方で地中海食事の順守と膵臓がんの間に関連を観察しなかった。

酸化ストレスおよび炎症について性差があると良く知られている (6-8)。

酸化ストレスおよび炎症はアテローム性血管炎症の原因で重要な役割を演じて、梗塞および虚血を導く。

酸化ストレスは雄で雌ラットよりも高いと見えるので、男性 対 女性でスーパーオキシド・ディスムターゼ(SOD)、グルタチオンペルオキシダーゼ(GPx)の値は低く、そして過酸化の値は高い(6)。

ヒトで、酸化ストレスのバイオマーカーは若い男性で同年代の女性よりも高いが、しかしこれは意味の明瞭な結果ではない。

レスベラトロールは多面的な薬理学的特性を有する。

それは、反応性酸素種および炎症による損傷の保護を促進して、心臓血管系の保護作用およびある種の抗がん活性をもたらす。

我々による文献の再検討で、結腸がんの患者における地中海食事の有益な作用は複数成分の相乗効果に属すると、我々は結論を出した。

---